

平成 15 年度看護必要度に関する調査結果〈速報〉

1. 調査目的

重症者の割合が高い病棟等について、看護必要度分布と看護配置の関連等を解析するため、患者の状態評価情報及び看護師等の実働勤務時間データを収集する。

2. 調査方法

1) 「看護必要度」の評価者の養成と調査対象病院

看護必要度の適切な評価を行うために必要な知識・技術とこれらの研修を院内で行う際の研修方法を習得することを目的に調査説明会と同時に看護必要度に関する研修会を開催した。調査対象病院の調査責任者は、これらの全国研修会に参加することを義務づけた。

さらに対象病院において、全国研修会に参加した看護師が院内で再度、評価のための研修を開催した後、調査を開始することを義務づけた。

院内研修の内容やその方法については、その内容が普遍化されるようにテキストを配布した。このため本調査で収集されたデータは、一定の精度が担保されていると考えられる。

2) 対象病院および病棟

特定集中治療室管理料、一般病棟入院基本料 I 群 1（または、特定機能病院入院基本料一般病棟 I 群 1）及び急性期（特定）入院加算（特定機能病院を除く）を届け出ている病院のうち、一般病棟における看護職員実配置が高い病院 28 病院である。

これらの病院が任意に、以下の 3 種類の病棟を選定し、平成 15 年 10 月 1 日より、連続する 21 日間の調査を実施した。

- ①特定集中治療室管理料を届け出ている治療室 [病棟 1]
 - ②看護の手間が多いと判断される患者が最も多く、かつ夜間の看護配置が 10 対 1 以上である病棟（ただし、産科病棟、小児病棟は除く） [病棟 2]
 - ③看護の手間が少ないと判断される患者が最も多い病棟 [病棟 3]
- 調査病棟の概要については、表 1 に示したとおりである。

表 1 調査病棟の概況（昨年度実績）

		届出病床数	稼働病床数	平均患者数	病床利用率	平均在室日数
病棟1	平均値	11.0	10.9	9.2	85.2	6.9
	標準偏差	5.9	5.9	5.0	13.3	4.6
	最小値	4	4	3.4	56.7	2.8
	最大値	24	24	19.7	100	20.7
	中央値	9	10	8	89.9	5.3
病棟2	平均値	32.0	31.3	27.4	85.1	13.9
	標準偏差	11.2	11.2	11.5	10.5	8.2
	最小値	10	10	8	61.2	2.6
	最大値	51	51	51	100	29.5
	中央値	32	32	26.3	86.2	12.7
病棟3	平均値	40.1	39.9	34.9	86.9	16.3
	標準偏差	12.8	12.6	11.5	7.7	6.9
	最小値	12	12	10.1	71.5	6
	最大値	67	67	64.9	98.3	27.7
	中央値	41	41	36.1	86.9	17.4
合計	平均値	27.7	27.3	23.8	85.7	12.4
	標準偏差	16.1	15.9	14.5	10.6	7.8
	最小値	4	4	3.4	56.7	2.6
	最大値	67	67	64.9	100	29.5
	中央値	26	25	21.5	86.9	10.4

3. 調査結果

1) 3病棟別在院日数（平均値）の分布（調査期間）

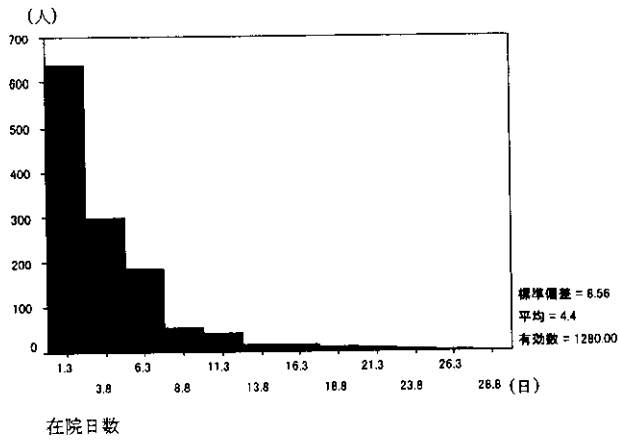


図1 「病棟1」の在院日数の分布

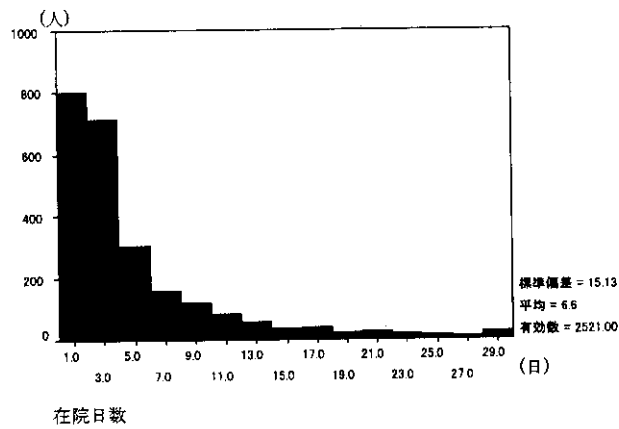


図2 「病棟2」の在院日数の分布

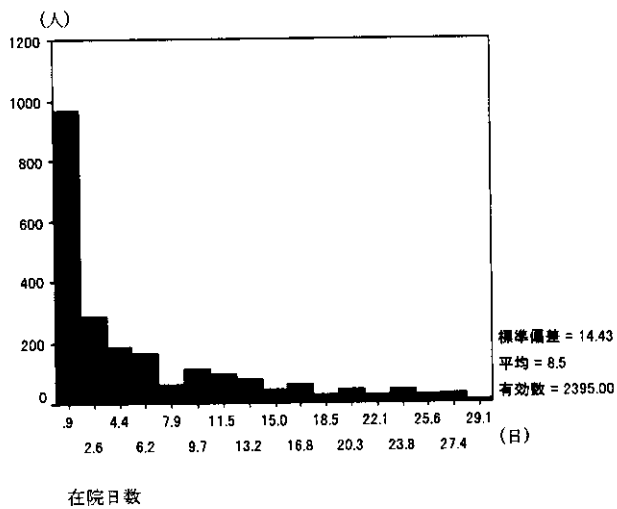


図3 「病棟3」の在院日数の分布

2) 病棟別重症度得点等の分布について

① Aモリツグ及び処置等（処置等）得点、B患者の状況得点の平均値および最小値、最大値等

Aの得点は、処置等が多ければ多いほど、得点が高い。3病棟で統計的な有意差があり、「病棟1」、「病棟2」、「病棟3」の順に得点が高かった。逆にB得点は、患者の状況が悪ければ悪いほど得点が高い。これも有意差があり、「病棟3」が最も高く、「病棟2」、「病棟1」の順に得点は低くなっていた。

表2 3病棟別「処置等」、「患者の状況」得点の比較

	病棟の種類	平均値	人数	標準偏差	最小値	最大値
A 処置等	「病棟1」	4.38	4737	2.17	0	9
	「病棟2」	0.89	15308	1.39	0	9
	「病棟3」	0.23	20046	0.58	0	6
合計		0.97	40091	1.76	0	9
B 患者の状況	「病棟1」	2.02	4737	2.34	0	8
	「病棟2」	5.17	15308	3.1	0	8
	「病棟3」	6.82	20046	2.34	0	8
合計		5.62	40091	3.06	0	8

② 3病棟別重症度患者の割合

3病棟別に、「病棟1」で用いられている重症度の基準を満たした患者（以下、重症患者と略す）の割合をみると「病棟1」では、92.5%が重症患者であるが、「病棟2」では、44.1%、「病棟3」では、18.1%と示された。病棟2の重症患者の割合は、有意に「病棟1」よりも低かった。また、「病棟3」にも18.1%の重症患者が存在しており、重症患者を分散して看護している状況が推察された。（ただし、「病棟1」は、特定集中治療室管理料の算定患者のみを解析の対象とした）

表3 3病棟別重症度患者の割合

	重症患者(ICU基準による)		その他		合計	
	N	(%)	N	(%)	N	(%)
病棟1	3619	(92.5)	295	(7.5)	3914	(100)
病棟2	6747	(44.1)	8561	(55.9)	15308	(100)
病棟3	3624	(18.1)	16422	(81.9)	20046	(100)
合計	13990	(35.6)	25278	(64.4)	39268	(100)

3) 病棟別「看護必要度」項目の回答状況

これらの3病棟に、調査期間21日間に存在した患者数は、「病棟1」でのべ5,374名、「病棟2」で16,419名、「病棟3」で20,766名の計42,559名であった。以下に、これらの病棟別の患者の状態を示した「看護必要度」項目の回答に関する解析結果を示した（ただし、ここでの解析対象者は、看護必要度評価項目の調査時間となっている概ね14:00に存在した患者である）。

①創傷処置

「病棟1」では「あり」が2,665名(56.3%)で最も高く、次いで、「病棟2」で「あり」が5,004名(32.7%)、「病棟3」では、「あり」が3,580名(17.9%)で最も低かった。

②計画に基づいた指導

「病棟1」では「あり」が584名(12.3%)、「病棟2」では「あり」が2,318名(10.8%)、「病棟3」では、「あり」が3,580名(11.6%)であった。「病棟1」に次いで多かったのは、「病棟3」であった。

③蘇生術の施行

「病棟1」では「あり」が147名(3.1%)、「病棟2」では「あり」が81名(0.5%)、「病棟3」では、「あり」が22名(0.1%)であった。いずれの病棟も発生率は、低かったが「病棟1」では、「病棟3」の30倍の発生率であり、生命維持など、緊急の処置が必要な患者が多かったことを示していた。

④血圧測定

「病棟1」では「21」回以上が約4割(35.8%)と非常に高い割合を示していたが、「病棟2」では、1.0%で、「病棟3」では、全くいなかった。この結果は、「病棟2」や「病棟3」においては、時間毎の血圧の管理が必要なものは、ほとんどいないことを示していた。

⑤時間尿測定

「病棟1」では「あり」が2,748名(58.0%)、「病棟2」では「あり」が1,752名(11.4%)、「病棟3」では、「あり」が927名(4.6%)であった。「病棟2」は、全患者の1割程度が時間尿測定が必要な患者であったが、「病棟3」の約3倍の患者が時間尿測定を必要としていた。

⑥呼吸ケア

「病棟1」では「あり」が3,997名(84.4%)、「病棟2」では「あり」が5,165名(33.7%)、「病棟3」では、「あり」が2,044名(10.2%)であった。呼吸ケアは、「病棟2」では、全体の3割の患者が必要であった。これは、病棟3の病棟の3倍程度の患者になされていることを示していた。

⑦点滴ライン3本以上

「病棟1」では「あり」が3,202名(67.6%)、「病棟2」では「あり」が1,946名(12.7%)、「病棟3」では、「あり」が580名(2.9%)であった。「病棟3」では、ほとんど点滴ラインが3本以上の患者はいないが、「病棟1」では、全患者の7割が必要であり、「病棟2」では、約1割の患者が必要であった。これは、「病棟3」の4倍にあたる患者であった。

⑧意思決定支援

「病棟1」では「あり」が282名(6.0%)、「病棟2」では「あり」が463名(3.0%)、「病棟3」では、「あり」が619名(3.1%)であった。意思決定支援については、「病棟2」と「病棟3」に差はみられなかった。

⑨身体的な症状の訴え

「病棟1」では「あり」が2,467名(52.1%)、「病棟2」では「あり」が7,298名(47.7%)、「病棟3」では、「あり」が8,537名(42.6%)であった。症状の訴えについては、「病棟1」が

「病棟2」と「病棟3」よりも多かったが、「病棟2」と「病棟3」の病棟間の差はほとんどなかった。

⑩どちらかの手を胸元まであげる

「病棟1」では「できる」が3,193名(67.4%)、「病棟2」では13,335名(87.1%)、「病棟3」では、19,556名(97.6%)であった。「病棟3」では、ほとんどの患者ができた。「病棟2」では、1割程度の患者は、できなかった。

⑪寝返り

「病棟1」では「できる」が1,105名(23.3%)、「病棟2」では「できる」が9,885名(64.6%)、「病棟3」では、「できる」が16,760名(83.6%)であった。寝返りができない患者の割合は、「病棟3」を1とすると、「病棟2」では約3倍、「病棟1」では、約8倍となっていた。

⑫起き上がり

「病棟1」では「できる」が923名(19.5%)、「病棟2」では「できる」が9,790名(64.0%)、「病棟3」では、「できる」が17,214名(85.9%)であった。「病棟1」では、8割以上が「できない」と回答され、この割合は、「病棟2」の2.5倍程度であった。

⑬座位保持

「病棟1」では「できる」が823名(17.4%)、「病棟2」では9,149名(59.8%)、「病棟3」では、16,668名(83.1%)であった。また、座位保持ができない患者の割合をみると「病棟3」を1とすると、「病棟2」では約3倍、「病棟1」では、約8倍となっていた。

⑭移乗

「病棟1」では「できる」が679名(14.3%)、「病棟2」では「できる」が7,596名(49.6%)、「病棟3」では、「できる」が14,961名(74.6%)であった。また、移乗ができない患者の割合をみると「病棟3」を1とすると、「病棟2」では約3倍、「病棟1」では、約7倍となっていた。

⑮移動方法

「病棟1」では「移動なし」が2,677名(56.5%)で「移動なし」が最も大きい割合を示していた。「病棟1」では、「自立歩行」ができる患者は、3.3%と他の病棟に比較して、とくに低い割合を示していた。

「病棟2」では「自立歩行」の割合が最も高く、次いで「移動なし」と示された。

一方、「病棟3」では、6割が「自立歩行」であった。

⑯口腔清潔

「病棟1」では「できる」が597名(12.6%)、「病棟2」では「できる」が8,091名(52.9%)、「病棟3」では、「できる」が16,399名(81.8%)であった。また、口腔ケアができない患者は、「病棟1」では、8割を超えていたが、「病棟2」では、半数、「病棟3」では、約2割しかできない患者はいなかった。

⑰食事摂取

「病棟1」では「介助なし」が3,190名(67.3%)、「病棟2」では10,463名(68.3%)、「病棟3」では、17,000名(84.8%)であった。全介助の割合は、「病棟1」と「病棟2」は、全患者の2割程度でほぼ同じであった。

⑱ズボン・パンツの着脱

「病棟1」では「介助なし」が2,615名(55.2%)、「病棟2」では8,385名(54.8%)、「病棟3」では、15,320名(76.4%)であった。「病棟1」と「病棟2」では、ほぼ同じで半数が介助なしであった。

⑲他者への意思の伝達

「病棟1」では、「できる」が2,468名(52.1%)、「病棟2」では、10,708名(70.0%)、「病棟3」では、17,839名(89.0%)であった。また、他者への意思伝達ができない患者の割合をみると「病棟3」を1とすると、「病棟2」では約4倍、「病棟1」では、約10倍ができないと回答されていた。

⑳指示が通じる

「病棟1」では、「はい」が2,692名(56.8%)、「病棟2」では、11,195名(73.1%)、「病棟3」では、18,201名(90.8%)で、「病棟3」では、ほとんどの患者に指示が通じていた。

㉑危険行動

「病棟1」では「ある」が1,509名(31.9%)、「病棟2」では、3,893名(25.4%)、「病棟3」では、2,632名(13.1%)であった。

表4 病棟別「看護必要度」項目の回答傾向

①創傷処置	なし	あり			
病棟1	43.7	56.3			
病棟2	67.3	32.7			
病棟3	82.1	17.9			
②計画に基づいた指導	なし	あり			
病棟1	87.7	12.3			
病棟2	89.2	10.8			
病棟3	88.4	11.6			
③蘇生術の施行	なし	あり			
病棟1	96.9	3.1			
病棟2	99.5	0.5			
病棟3	99.9	0.1			
④血圧測定	0回	1~5回	6~10回	11~20回	21回~
病棟1	0	14.3	26.8	23.1	35.8
病棟2	4.5	77.8	11.4	5.4	1.0
病棟3	9.2	86.8	3.2	0.7	0.1
⑤時間尿測定	なし	あり			
病棟1	42.0	58.0			
病棟2	88.6	11.4			
病棟3	95.4	4.6			
⑥呼吸器	なし	あり			
病棟1	15.6	84.4			
病棟2	66.3	33.7			
病棟3	89.8	10.2			
⑦点滴を3本以上	なし	あり			
病棟1	32.4	67.6			
病棟2	87.3	12.7			
病棟3	97.1	2.9			
⑧意思決定支援	なし	あり			
病棟1	94.0	6.0			
病棟2	97.0	3.0			
病棟3	96.9	3.1			
⑨身体的な症状の訴え	なし	あり			
病棟1	47.9	52.1			
病棟2	52.3	47.7			
病棟3	57.4	42.6			
⑩どちらかの手を胸元まで握らなければならない	できる	できない			
病棟1	67.4	32.6			
病棟2	87.1	12.9			
病棟3	97.6	2.4			
⑪寝返り	できる	何かにつかまればできる	できない		
病棟1	23.3	21	55.7		
病棟2	64.6	12.2	23.2		
病棟3	83.6	8.6	7.8		
⑫起き上がり	できる	できない			
病棟1	19.5	80.5			
病棟2	64.0	36.0			
病棟3	85.9	14.1			
⑬坐位保身	できる	支えがあればできる	できない		
病棟1	17.4	25.5	57.1		
病棟2	59.8	20.3	20		
病棟3	83.1	9.1	7.7		

⑭移乗	できる	見守り・一部 介助が必要	できない					
病棟1	14.3	13.4	72.3					
病棟2	49.6	20.2	30.2					
病棟3	74.6	13.5	11.8					
⑮移動方法	自立歩行	杖歩行	つたい歩き	歩行器	車椅子による 自力走行	車椅子による 介助走行	その他(搬送 車等)	移動なし
病棟1	3.3	0.4	0.6	1.6	0.1	8.6	28.9	56.5
病棟2	34.7	2.9	3.6	5	1.5	20.3	9.6	22.4
病棟3	60.2	2.4	3.5	3.3	3.7	14.5	4.1	8.3
⑯口腔清潔	できる	できない						
病棟1	12.6	87.4						
病棟2	52.9	47.1						
病棟3	81.8	18.2						
⑰食事摂取	介助なし	一部介助	全介助					
病棟1	67.3	11.5	21.1					
病棟2	68.3	14.6	17.1					
病棟3	84.8	10.5	4.7					
⑱ズボン・パンツの着脱	介助なし	一部介助	全介助					
病棟1	55.2	14.2	30.6					
病棟2	54.8	20	25.2					
病棟3	76.4	11.9	11.7					
⑲他者への意思の伝達	できる	できる時とでき ない時がある	できない					
病棟1	52.1	14.9	33					
病棟2	70	14.4	15.6					
病棟3	89	7.5	3.5					
⑳指示が通じる	はい	いいえ						
病棟1	56.8	43.2						
病棟2	73.1	26.9						
病棟3	90.8	9.2						
㉑危険行動	ない	ある						
病棟1	68.1	31.9						
病棟2	74.6	25.4						
病棟3	86.9	13.1						

4) 3病棟別「処置等」の有無の回答傾向

①心電図モニター

「病棟1」では「ある」が4,693名(99.1%)、「病棟2」では、5,381名(35.2%)、「病棟3」では、2,400名(12.0%)であった。「病棟1」では、ほとんどの患者は、「心電図モニター」をつけていた。「病棟2」も3割以上の患者がつけており、これは、「病棟3」の3倍にあたる。

②輸液ポンプの使用

「病棟1」では「ある」が3,789名(80.0%)、「病棟2」では、3,475名(22.7%)、「病棟3」では、1,247名(6.2%)であった。「病棟3」では、輸液ポンプをつけている患者の割合は、かなり低かったが、「病棟2」では、2割程度と示され、一定の患者がつけていることが示された。

③動脈圧測定

「病棟1」では「ある」が2,720名(57.4%)、「病棟2」では672名(4.4%)、「病棟3」では、43名(0.2%)であった。「病棟2」、「病棟3」の患者ともに動脈圧測定は、ほとんど実施されて

いなかった。

④シリンジポンプの使用

「病棟1」では「ある」が2,837名(59.9%)、「病棟2」では1,518名(9.9%)、「病棟3」では、270名(1.3%)であった。「病棟3」では、ほとんど使用されていないことがわかった。

⑤中心静脈圧測定

「病棟1」では「ある」が2,432名(51.3%)、「病棟2」では794名(5.2%)、「病棟3」では、373名(1.9%)であった。「病棟2」、「病棟3」共にほとんど実施されていないかった。

⑥人工呼吸器の装着

「病棟1」では「ある」が1,701名(35.9%)、「病棟2」では947名(5.2%)、「病棟3」では、55名(0.3%)であった。「病棟2」、「病棟3」共に、ほとんどの患者に人工呼吸器は装着されていなかった。

⑦輸血又は血液製剤の使用

「病棟1」では「ある」が1,174名(24.8%)、「病棟2」では「ある」が622名(4.1%)、「病棟3」では、「ある」が265名(1.3%)であった。3病棟ともに、輸血又は血液製剤の使用は比較的低い割合であったが、「病棟2」、「病棟3」では、患者には、ほとんど使用されていないかった。

⑧肺動脈圧測定

「病棟1」では「ある」が830名(17.5%)、「病棟2」では「ある」が52名(0.3%)、「病棟3」では、「ある」が12名(0.1%)であった。「病棟1」以外では、肺動脈圧測定は、ほとんど実施されていないかった。

⑨特殊な治療法

「病棟1」では「ある」が574名(12.1%)、「病棟2」では116名(0.8%)、「病棟3」では、28名(0.1%)であった。「病棟1」以外では、特殊な治療法は、ほとんど実施されていないかった。

表5 病棟別「処置」の有無の回答傾向

①心電図モニター	なし	あり	⑥人工呼吸器の装着	なし	あり
病棟1	0.9	99.1	病棟1	64.1	35.9
病棟2	64.8	35.2	病棟2	93.8	6.2
病棟3	88.0	12.0	病棟3	99.7	0.3
②輸液ポンプの使用	なし	あり	⑦輸血又は血液製剤の使用	なし	あり
病棟1	20.0	80.0	病棟1	75.2	24.8
病棟2	77.3	22.7	病棟2	95.9	4.1
病棟3	93.8	6.2	病棟3	98.7	1.3
③動脈圧測定	なし	あり	⑧肺動脈圧測定	なし	あり
病棟1	42.6	57.4	病棟1	82.5	17.5
病棟2	95.6	4.4	病棟2	99.7	0.3
病棟3	99.8	0.2	病棟3	99.9	0.1
④シリンジポンプの使用	なし	あり	⑨特殊な治療法	なし	あり
病棟1	40.1	59.9	病棟1	87.9	12.1
病棟2	90.1	9.9	病棟2	99.2	0.8
病棟3	98.7	1.3	病棟3	99.9	0.1
⑤中心静脈圧測定	なし	あり			
病棟1	48.7	51.3			
病棟2	94.8	5.2			
病棟3	98.1	1.9			

5) 3病棟における評価項目の回答の比較

①評価項目の回答傾向

3病棟に入院していた患者全員の状態の評価項目の回答傾向について比較した。この結果、Q1_2 退院予定、Q2_3 計画に基づいた指導、Q2_9 意思決定支援、Q3_9 ズボン・パンツの着脱、Q5_8 肺動脈圧測定については、3病棟における統計的な有意差はなかった。

しかし、これ以外の項目については、すべて有意差があったことから、病棟別の入院患者の状態は、異なっており、そのために看護師の配置にも大きな差があると考えられた。

表 6 病棟間で評価項目を比較した結果

質問項目	病棟1⇔病棟2	病棟2⇔病棟3	病棟1⇔病棟3
Q1_1 手術	0.00 **	0.006 **	0.00 **
Q1_2 退院予定	1.00	0.00 **	0.00 **
Q1_3 床上安静の指示	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q2_2 創傷処置	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q2_3 計画に基づいた指導	0.00 **	0.10	0.02 *
Q2_4 蘇生術の施行	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q2_5 血圧測定	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q2_6 時間尿測定	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q2_7 呼吸ケア	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q2_8 点滴ライン3本以上	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q2_9 意思決定支援	0.00 **	1.00	0.00 **
Q2_10 身体的な症状の訴え	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_1 どちらかの手を胸元	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_2 寝返り	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_3 起き上がり	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_4 座位保持	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_5 移乗	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_6 移動方法	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_7 口腔清潔	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_8 食事摂取	0.03 *	0.00 **	0.00 **
Q3_9 ズボン・パンツの着脱	0.09	0.00 **	0.00 **
Q3_10 他者への意思の伝達	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q3_11 指示が通じる	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q4_1 危険行動	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q5_1 心電図モニター	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q5_2 輸液ポンプの使用	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q5_3 動脈圧測定	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q5_4 シリンジポンプの使用	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q5_5 中心静脈圧測定	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q5_6 人工呼吸器の装着	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q5_7 輸血又は血液製剤の使用	0.00 **	0.00 **	0.00 **
Q5_8 肺動脈圧測定	0.00 **	0.12	0.00 **
Q5_9 特殊な治療法	0.00 **	0.00 **	0.00 **

*P<.05 **<.01

②3 病棟間で有意差がなかった評価項目

3病棟のそれぞれにおいて統計的な有意差がなかった5項目のうち、「病棟1」と「病棟2」に有意差がなかったのは、「退院予定」、「ズボン・パンツの着脱」の2項目であった。「病棟2」と「病棟3」間での有意差がなかったのは、「計画に基づいた指導」、「意思決定支援」、「肺動脈測定」の3項目であった。

6)1日あたりの病棟別看護師実配置、総勤務時間、患者数など

表7 1日あたりの病棟別看護師実配置、総勤務時間、患者数

注) 患者数：在室患者数 実患者数：24時現在の在室患者数

		看護師実配置合計 (1日あたり)	勤務時間合計 (1日あたり)	患者数合計 (1日あたり)	実患者合計 (1日あたり)
病棟1	平均値	18.0	11351.6	9.5	8.4
	標準偏差	8.4	5929.9	5.6	5.0
	最小値	5.0	3030.0	2.0	1.0
	最大値	46.0	29275.0	28.0	24.0
	中央値	17.0	10047.0	8.0	7.0
病棟2	平均値	19.3	11280.9	29.0	27.0
	標準偏差	5.7	3338.5	11.7	12.0
	最小値	9.0	4500.0	4.0	3.0
	最大値	36.0	20644.0	59.0	59.0
	中央値	19.0	10775.0	29.0	26.0
病棟3	平均値	14.0	8036.5	36.6	35.4
	標準偏差	4.4	2497.1	12.6	12.6
	最小値	6.0	540.0	10.0	8.0
	最大値	29.0	17888.0	76.0	70.0
	中央値	14.0	7995.0	36.0	35.0
合計	平均値	17.1	10223.0	25.0	23.6
	標準偏差	6.7	4459.5	15.5	15.4
	最小値	5.0	540.0	2.0	1.0
	最大値	46.0	29275.0	76.0	70.0
	中央値	16.0	9455.0	23.0	21.0

7)病棟別の実患者／職員数

① 「病棟1」

21日間の期間中、「病棟1」病棟の看護師1人あたりが受け持った患者の実人数は、平均1.12で、看護配置が最も高い値は、0.2で、これは看護師5人で1人の患者を看護していたことになる。

反対に、最も低い値は2.25人で、1人の看護師で2.25人の患者を看護していたことになり、最も高い配置とは、10倍の開きがあった。平均的には、1人の看護師は、1.33人の患者を看護していた。

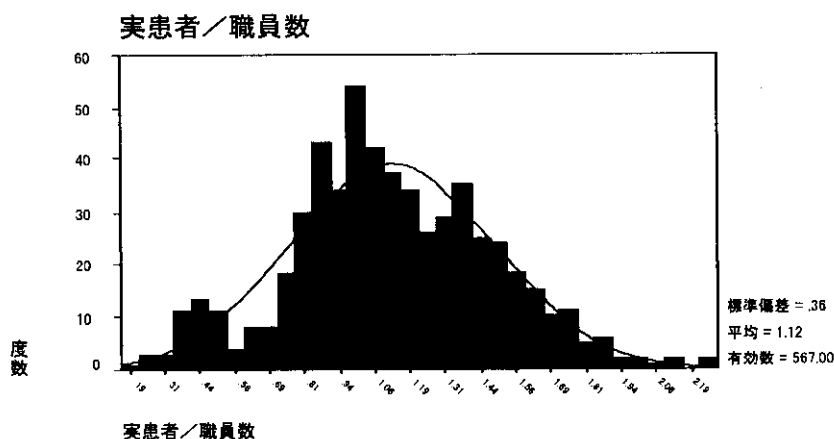


図4 病棟別の実患者/職員数の分布「病棟1」

② 「病棟2」

21日間の期間中、「病棟2」の看護師1人あたりの受け持った患者の実人数は、平均3.71で、看護配置が最も高い値は、0.49で、これは看護師2人で約1人の患者を看護していたと考えられた。

反対に、最も低い値は10.78人で、1人の看護師で10.78人の患者を看護していたことになり、最も高い配置とは、22倍の開きがあり、病棟による差がかなり大きかった。平均的には、1人の看護師は、3.7人の患者を看護していた。

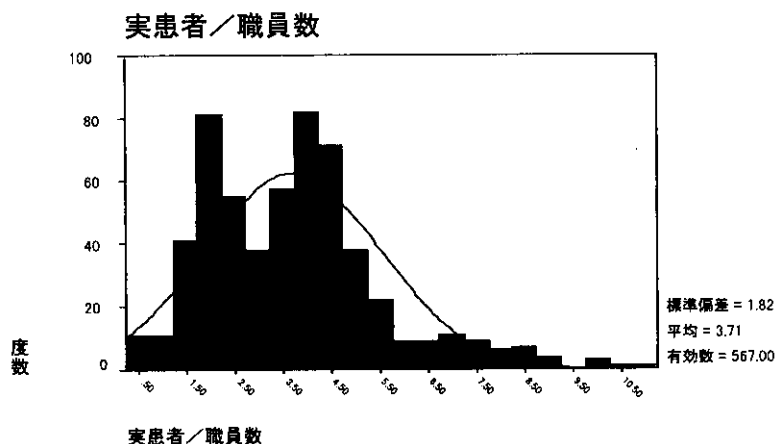


図5 病棟別の実患者/職員数の分布「病棟2」

③ 「病棟3」

21日間の期間中、「病棟3」の看護師1人あたりの受け持った患者の実人数は、平均6.61で、看護配置が最も高い値は、2.2で、これは看護師1人で約2.2人の患者を看護していたことになる。

反対に、最も低い値は15.9人で、1人の看護師で15.9人の患者を看護していたことになり、最も高い配置とは、約7倍の開きがあった。病棟による差は、かなり大きいですが、全般的に、1人の看護師で看護する患者数が病棟2に比較するとかなり多かった。

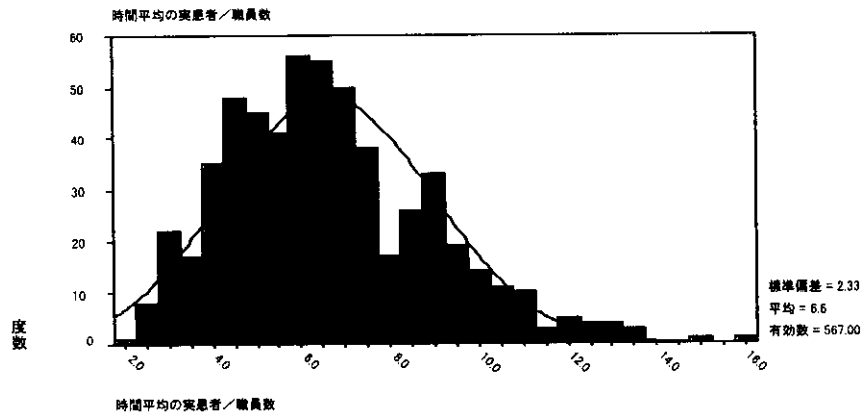


図6 病棟別の実患者/職員数の分布「病棟3」

8) 3病棟の看護師配置に関する比較

「病棟1」と病棟2の間には、患者に対する看護師の実配置に有意な差はなかったが、「病棟3」とは、有意な差が示された。「病棟1」と「病棟2」の実配置の平均値を比較すると、約3倍の開きがあり、「病棟3」においては、6倍の開きがあった。

表8 3病棟の看護師配置に関する比較

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
病棟1	1.12	567	0.4	0.2	2.3
病棟2	3.71	567	1.8	0.5	10.8
病棟3	6.61	567	2.3	2.2	15.9
合計	3.81	1701	2.8	0.2	15.9

患者の状態評価票

調査日： / /

患者番号		患者名	
------	--	-----	--

1. 調査日の0時から24時までを見て、チェックしてください。

1-1. 手術	1. なし 2. 手術前日 3. 手術当日 主な術式名 () 手術時間 () 分
1-2. 退院予定	1. なし 2. あり (退院まで) 日
1-3. 床上安静の指示	1. なし 2. あり

2. 前日調査から本日の調査まで24時間の記録を見て、チェックしてください。

2-1. 調査日の主な診断名 (最大3種類)	(1) (2) (3)
2-2. 創傷処置	1. なし 2. あり
2-3. 計画に基づいた10分以上の指導	1. なし 2. あり
2-4. 蘇生術の施行	1. なし 2. あり
2-5. 血圧測定	1. 0回 2. 1~5回 3. 6~10回 4. 11~20回 5. 21回~
2-6. 時間尿測定	1. なし 2. あり
2-7. 呼吸ケア	1. なし 2. あり
2-8. 点滴ライン同時3本以上	1. なし 2. あり
2-9. (看護計画に基づいた)10分以上の意思決定支援	1. なし 2. あり
2-10. 身体的な症状の訴え	1. なし 2. あり

3. 調査日の8時30分から14時までを見て、チェックしてください。

3-1. どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	1. できる 2. できない
3-2. 寝返り	1. できる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
3-3. 起き上がり	1. できる 2. できない
3-4. 座位保持	1. できる 2. 支えがあればできる 3. できない
3-5. 移乗	1. できる 2. 見守り・一部介助が必要 3. できない
3-6. 移動方法 (主要なもの1つ)	1. 自立歩行 2. 杖歩行 3. つたい歩き 4. 歩行器 5. 車いすによる自力走行 6. 車いすによる介助走行 7. その他 (搬送車等) 8. 移動なし
3-7. 口腔清潔	1. できる 2. できない
3-8. 食事摂取	1. 介助なし 2. 一部介助 3. 全介助
3-9. スボン・パンツの着脱	1. 介助なし 2. 一部介助 3. 全介助
3-10. 他者への意思の伝達	1. できる 2. できる時とできない時がある 3. できない
3-11. 診療・療養上の指示が通じる	1. はい 2. いいえ

4. 調査日の過去1ヶ月から現在までを見て、チェックしてください。

*ただし、入院が1ヶ月に満たない患者の場合は、入院してからの状況を見てチェックをして下さい。

4-1. 危険行動	1. ない 2. ある
-----------	------------------------

5. 前日の調査時刻から本日の調査時刻までのを見て、チェックしてください。

5-1. 心電図モニター	1. なし 2. あり
5-2. 輸液ポンプの使用	1. なし 2. あり
5-3. 動脈圧測定 (動脈ライン)	1. なし 2. あり
5-4. シリンジポンプの使用	1. なし 2. あり
5-5. 中心静脈圧測定 (中心静脈ライン)	1. なし 2. あり
5-6. 人工呼吸器の装着	1. なし 2. あり
5-7. 輸血又は血液製剤の使用	1. なし 2. あり
5-8. 肺動脈圧測定 (スワンガツカテール)	1. なし 2. あり
5-9. 特殊な治療法 (CHDF, IABP, PCPS, 心室補助装置, ICP測定等)	1. なし 2. あり

6. 調査日の特定集中治療室管理料の算定の有無 (特定集中治療室入室患者のみ)

6-1. 特定集中治療室管理料の算定の有無	1. なし 2. あり
-----------------------	------------------------

重症度に係る評価票

A: モニタリング及び処置等	配点	
	0点	1点
1. 心電図モニター	なし	あり
2. 輸液ポンプの使用	なし	あり
3. 動脈圧測定(動脈ライン)	なし	あり
4. シリンジポンプの使用	なし	あり
5. 中心静脈圧測定(中心静脈ライン)	なし	あり
6. 人工呼吸器の装着	なし	あり
7. 輸血や血液製剤の使用	なし	あり
8. 肺動脈圧測定(スワンガンツカテーテル)	なし	あり
9. 特殊な治療法等(CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP測定)	なし	あり
A:モニタリング及び処置等合計点		

B: 患者の状況等	配点		
	2点	1点	0点
10. 寝返り	できる	何かにつかまればできる	できない
11. 起き上がり		できる	できない
12. 座位保持	できる	支えがあればできる	できない
13. 移乗	できる	見守り・一部介助が必要	できない
14. 口腔清潔		できる	できない
B:患者の状況等合計点			